

朝の礼拝

聖書 列王記上9章11-14節 (旧約聖書565頁)

主は、「そこを出て、山の中で主の前に立ちなさい」と言われた。見よ、そのとき主が通り過ぎて行かれた。主の御前には非常に激しい風が起こり、山を裂き、岩を砕いた。しかし、風の中に主はおられなかった。風の後には地震が起こった。しかし、地震の中にも主はおられなかった。地震の後には火が起こった。しかし、火の中にも主はおられなかった。火の後には、静かにささやく声が聞こえた。それを聞くと、エリヤは外套で顔を覆い、出て来て、洞穴の入り口に立った。そのとき、声はエリヤにこう告げた。「エリヤよ、ここで何をしているのか。」エリヤは答えた。「わたしは万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました。ところが、イスラエルの人々はあなたとの契約を捨て、祭壇を破壊し、預言者たちを剣にかけて殺したのです。わたし一人だけが残り、彼らはこのわたしの命をも奪おうとねらっています。」

ここで何をしているのか

旧約聖書の世界には神様の言葉を伝えた預言者がいました。ところが預言者エリヤは王様とお妃から命を狙われ、恐ろしくなり独り荒れ野に逃げ、もう死にたいと神様に嘆いたのでした。そして疲れ果てたエリヤはとうとう眠ってしまいました。

すると御使いがエリヤに食べ物と水を与え、力づけられたエリヤは長い旅の末、神の山ホレブに着きました。神様がモーセに十戒を授けた山です。そしてエリヤが洞穴で潜んでいると、神様は「エリヤよ、ここで何をしているのか」と聞くのでした。

神様はエリヤに洞穴を出て、山の中で私の前に立ちなさいと言われました。外では突風、地割れ、地震、大火が起きましたがその中には神様はいませんでした。その後、静かにささやく声が聞こえ、再び「エリヤよ、ここで何をしているのか」と聞くのでした。

神様はエリヤに「来た道を引き返しなさい」と言われました。エリヤは不安で恐ろしくなり逃げ出しましたが、神様はエリヤを叱責したのではなく、何も心配ない安心して行きなさいと見守り続けていたのです。

しばらく黙祷しましょう。

祈りましょう

私たちを励まし、導かれる主よ、新しい月を迎え今年も残すところ二ヶ月となりました。今週から英和祭、収穫感謝礼拝、そして今月は全校修養会、高校2年生スタディ・ツアー、創立記念日、アドベントと続きます。どうかあなたの導きの下によき準備がなされ、喜びと感謝のうちに迎えることができますように。今日一日もすべてをあなたに委ね、よき学びのうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン